

平成24年度教育研究活動報告書

氏 名	信木 伸一	所 属	芸術文化学部
学 位	教育学修士	職 位	教授
専門分野	国語教育学		
I 教育活動			
本年度担当科目			
学 部	国語科教育法 a、国語科教育法 b、教育原理、教育の方法と技術、総合演習、国語教育学専門演習 a、国語教育学専門演習 b、フィールドワーク		
大学院	国語教育学特論		
II 研究活動			
これまでの主な研究業績（5件まで）			
<p>（1）リテラシーの産出と古文学習－語られ方を読む学習の方法と実践－（第31回日本国語教育学会西日本集会 2006 『月刊国語教育研究』2006年10月号 日本国語教育学会）</p>			
<p>（2）読みの行為と学力を考えるために（『国語教育研究 第四十七号』広島大学国語教育会 2006）</p>			
<p>（3）国語教室で“ものの見方”を問題化する－「死」を問題領域として－（『Problématique V 文学／教育5』 同人Problématique 2004）</p>			
<p>（4）言説を問題化する学習の試み その2－〈わたし〉に関わる問題を扱って－（『Problématique IV 文学／教育4』 同人Problématique 2003）</p>			

(5) 言説を問題化する学習の試み—古文教材の場合— (『ProblématiqueIV文学／教育4』
同人Problématique 2002)

本年度を含む過去5年間の研究業績

(1) 国語教育のためのオートポイエーシス論 (『論叢国語教育学 復刊第号』 広島大学国語文化教育学講座2012.5)

(2) 思考の論理・思想の論理を問題化する読みの学習— 小説教材を例に — (『国語教育研究 第五十三号』 広島大学国語教育会 2012.3)

(3) 思考の論理・思想の論理を獲得する読みの学習 — 説明文教材を例に — (『国語教育研究 第五十二号』 広島大学国語教育会 2011.3)

(4) 読みのシステムの作動と変容—読解リテラシーを育成する学習のために— (尾道大学日本文学会『尾道大学日本文学論叢』 (第6号) 2010.12)

(5) 全国大学国語教育学会編『新たな時代を拓く 中学校・高等学校国語科教育研究』 (学芸図書 2010.12)

(6) オートポイエーシス論から見た「読み」を産出する機構の形成 (全国大学国語教育学会第119回鳴門大会 2010.10)

(7) 中・高一貫教育における進路志望形成の諸因子の関係性 (『広島大学附属福山中高等学校研究紀要 第49巻』 2009.3)

(8) これからの教育実習—国語科における教育実習指導の研究 (3) (4) 『広島大学学部・附属共同研究紀要 第36号、第37号』 2008.3、2009.3)

現在の研究テーマ (3つまで)

(1) 古典教育における言説論アプローチの研究

(2) 小・中・高一貫の「伝統的な言語文化」の教育カリキュラムに基づく授業創造に関する研究

(3) 教員養成における授業力形成についての研究

研究テーマの
進捗状況

(1) 古典教育における言説論アプローチの研究については、このアプローチによる読みの学力形成について考察し、教材テキストの思想の枠組みについての分析を行った。
(2) 小・中・高一貫の「伝統的な言語文化」の教育カリキュラムに基づく授業創造に関する研究については、教育カリキュラム策定のために教科書及び学習者について調査を行った。
(3) 「教員としての授業力形成」については、学校教育の現場と連携し授業研究を行い、事例研究をすすめている。

学会、所属団体における活動

所属学会・所属団体 役職等

全国大学国語教育学会、日本国語教育学会、中国四国教育学会、広島大学国語教育会、尾道大学日本文学会

Ⅲ 社会活動

学外活動

(1) 広島県立尾道北高等学校教員研修会で研究授業

(2) 尾道市立栗原中学校学校評議委員